

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年6月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671200527
法人名	医療法人サンライフ
事業所名	国分府中グループホーム
所在地	霧島市国分府中町13-15 (電話) 0995-48-6613
自己評価作成日	平成27年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*認知症の方々に、家庭的な環境の中で、いきいき、のびのび、ゆったりとした生活を送っていただけるように、ご支援させていただきます。
*毎日の生活に楽しみや喜びをもち、心身の安定を図り、自立心と自信を持ち、人とのふれあいと交流のある暮らしを、ご利用者の方々と一緒につくっていきます。
*医療機関の併設であり、迅速な対応に心がけています。
*ご家族の訪問が多くあり、明るい雰囲気のホームです。

○管理者及び職員は、理念「いきいき、のびのび、ゆったりと」に沿って利用者の人格や誇りを大切にしながら日々思いや意向の把握に努め、サービスの提供が利用者各人の習慣や性格、思いに配慮した利用者主体のものになっているか常に意識して取り組んでいる。食事や入浴等はホームの基本的な日程に固執することなく、希望される時間及びその人のペースに職員が添うように努めている。利用者が地域の中で穏やかに、ゆったりと幸せを感じながら生活できるよう誠心誠意、ケアに取り組んでいる。
○ホームは開設以来、地域との交流に積極的に取り組んでおり、法人本部が自治会に加入して行事や清掃活動に参加し、日常的に地域の方や家族・親せき、友人の来訪がある。ボランティアの積極的な受け入れ、近隣の方から農作物を頻繁に頂くなどの交流が盛んで、また管理者は市からライフサポートワーカーの任命を受けており、「まちかど介護相談所」の看板を掲げて、地域の高齢者から寄せられる悩みやケアに関する相談に熱心に取り組んでおり、地域住民の信頼は高いものとなっている。
○管理者は、職員及び家族との協力体制及び信頼関係の確立が何よりサービス向上に繋がると認識して、日頃から要望や意見等の把握に努め、課題の大小に関わらず誠意をもって対処しており、自由に意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が構築されている。
○利用者の重度化や終末期への対応については、隣接の協力医療機関と密に連携を図って、本人や家族の希望に添って積極的に取り組んでおり、これまで数件の看取りを実施している。管理者は、重篤者の状況に応じた研修の実施やフォロー体制の構築に努め、職員のスキルの向上と不安の解消を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示している。会議では理念を唱えており、入居者のケア方法については、理念をもとに方向性を検討している。	ホームの理念に沿って、利用者の尊厳を大切に一人一人の状況に合わせた思いやりのあるきめ細かな支援に日々取り組んでいる。理念は、いつでも見られるようにリビングに掲示すると共に、毎月開催の職員会議や朝夕の申し送り時に、研修やケアの振り返りを実施して、理念の理解と理念に添ったより良いケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は、町内会に入っている。催事には協力的に参加し、地域ケアカンファレンスのメンバーでもある。運営推進会議では地域行事の連絡を頂いている。	ホームで開催の七夕まつり、敬老会、クリスマス会、餅つき等の行事には家族や地域の人に参加してもらっている。日常的に家族や友人知人の来訪があり散歩や買い物に出かけて地域の人と挨拶や会話し、お話やお茶、作品作りを利用者と一緒に楽しんでいただくボランティアや中学生の体験学習、高校生の実習も積極的に受け入れており、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。また、管理者はライフサポートワーカーとして「まちかど介護相談所」の看板を掲げて地域の高齢者の相談に丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方にも夏祭りの案内を行っている。訪問の際、認知症の方々の様子や病気についての話をしている。また、管理者はライフサポートワーカーとして、相談業務を担っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族にもメンバーとして出席していただき意見をもらっている。会議報告書は、全家族に配布している。	会議は利用者、家族、地域住民、市介護保険課、地域包括支援センターの参加を得て定期的開催されている。利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果等の報告がなされると共に、委員から地域の情報やケアに関する意見が出されるなど情報交換の場になっている。また法人の防火管理者による災害に備えての講話や備蓄食品の試食をする等研修にも取り組んでいる。会議の内容は議事録で共有を図り、日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は必要に応じて介護担当窓口への相談に出かけている。市介護相談員の訪問が年2回あり、入居者の声を聞いてもらいケアサービスの見直しを行う機会となっている。	市担当者には運営推進会議に出席して頂くとともに、訪問や電話で諸手続きや運営、利用者のケアについて相談や協議を行い、情報や助言を頂くなど連携を密に図ってサービス向上に取り組んでいる。また、市が主催する会議や研修等にも参加して情報や意見の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルをもとにケアカンファレンスで検討している。委員会では、他部署（医療部門、デイサービス）の報告と意見交換を行っている。2月に学習会に参加した。	居室や玄関等の施錠は行わず、見守りや気づきを徹底したケアに取り組んでおり、認知症ケアや虐待防止・身体拘束等に関するマニュアルを整備して計画的に研修を実施している。また言葉による拘束も含めて日々のケアの中で認識を深め、安全確保やその人らしい暮らしの支援に努めており、外出しそうな利用者には、職員が寄り添って対話や散歩を行い安定を図っている。また、近隣の方々とも見守りや声かけをしてもらえる関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2月に学習会があった。家族や職員がストレスをためない為にも、気持ちを伝えあったり、勤務体制の工夫を行い、リフレッシュが図れるように配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学習会で事例検討に取り組んでいる。成年後見制度については対象者があり、職員間で資料学習している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分な説明を行い、質問や不安なことに、ご理解いただけるように心がけている。H26年改定時には、個別に説明し詳細な文書を作り配布している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議において、入居者、家族もメンバーとして出席していただき意見をもらっている。行事や訪問の際にも困りごとや要望はないか尋ねている。また職員会議で報告検討し改善に努めている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情、所作等で、また家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時の対話等で把握に努めている。職員は運営推進会議録や介護支援記録で内容の共有を図り、職員会議や申し送りで対応を話し合っケアへ反映させており、結果は家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や法人内各部署の代表者による連絡会を定期的に行い報告や話し合いをしている。	管理者は日頃より、話しやすい雰囲気作りに努めて、日々の申し送りや毎月の職員会議・日頃のケアの中で意見や提案を聞き取り、また内容によっては個人面接で把握している。ケアや業務の改善に向けた意見や提案は、職員会議や申し送りで話し合っサービスの向上に反映させるなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員の資格取得やスキルアップについても積極的にバックアップして意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談時の内容や管理者の意見をもとに、勤務年数や利用者家族からの評判などを加味し、処遇に反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力については、日常の勤務状況や管理者の意見をもとに判断している。研修については、参加する研修内容を区分し、法人内の取り決めに従い参加時間、費用、奨励金の付与をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会、地域密着型事業者連合会に加入し、情報の入手、研修会への参加をしている。霧島市主催市民対象行事の開催には、他事業者とともに協力している。（健康福祉祭り）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気軽に声を掛けていただける様にのんびりとした雰囲気作りをし本人が不安を抱え込まないように時間をかけて会話をもち安心して頂く。また、心配や不安解消についてスタッフが情報交換、話し合いを行い誰でも対応すること事が出来るように努め信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に来所して頂ける様に雰囲気作りを努め、遠慮なく相談・ご意見を頂けるようにしている。又、迅速に対応しその都度、報告、相談（一緒に考えて頂く）ことで信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討する段階で困りごと希望を伺い、グループホームが適応であるのか？当施設が本人の安心できる環境になるのかを十分に考慮し助言を行い決定をしてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にもホーム内での役割を持って頂ける様に、出来ることはお手伝いをもらいながら共同生活をする中で自分の存在感を持って頂き支え合う関係を築ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かく日々の生活を記録しながら家族の方々にもその様子を伝えている。状況に変化があったら報告と意見を頂き一緒にご本人の支援が出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数ではあるが、ご家族の協力も頂き外出の機会に馴染みの場所へ行ける機会を作る様に支援をしている。又、気軽に訪問して頂けるように来客時は、居室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。	利用者が在宅時に培ってきた馴染みの人や場については、入所時のアセスメント表で情報を共有し、家族と連携して馴染みの美容室や墓参り、買い物、自宅近辺へのドライブ等、可能な限り利用者の希望に沿うように、ライフサポートプランに組み込んで支援している。家族や知人・友人の来訪時には、ゆっくりと過ごせるように場所やお茶等に配慮し、遠方の親族との電話や手紙の取次ぎも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が困難な（耳が聞こえ辛い、言葉が出てき辛い）場合、スタッフが間に入り会話をする。その際も皆なで共有できる話題を提供し共に過ごせる時間を持つて頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に訪問して頂ける様に声を掛けている。時々相談の電話を頂くこともあり、自宅訪問し出来る支援に努めている、ご家族の高齢化に伴い介護保険利用の相談にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話に傾聴し思いや希望に寄り添えるように努めている。発語のできなくなった入居者に対しても声掛けをし、それに対する反応や返答を大切にしている。	利用開始時の聞き取りや日頃の利用者及び家族との関わりの中で、思いや希望をくみ取るように努め、介護支援記録や申し送りなどで内容を共有している。対応については、職員で十分話し合い、内容によっては家族とも相談しながら、利用者の気持ちを大切にしたい利用者本位のより良い支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人の方々から昔の話を聞かせて頂いている。他の利用機関からも情報を貰い暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムに合わせて、言葉や行動から思いに沿いながら出来る限り、残存機能を活用して頂く支援に努めている。毎日の表情、言動に気を付け、変化に気付き状況に合わせた支援を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、思いや希望を受け止めスタッフで検討しライフサポートワークを使った計画に切り替えている。家族の面会時に現況報告をし、家族の思いも受け止め今後のケアについての相談をしている。	ライフサポートプランは、利用者本人の意向や希望及び医師を始めとした関係者からの情報を基に、職員全員で意見交換して、利用者本位のきめ細かなプランを作成している。各利用者の課題と改善目標等を明確にし、ケアの方法や受診状況等も詳しく記載されている。定期のモニタリングに加え、日常的に状況をモニタリングする姿勢で取り組んで、最善のケアになるよう努めている。入院など利用者の状況変化に対しても、実態に即したプランの見直しや修正が適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はできるだけそのままの会話文で記入している。又、普段と異なった状況の時は詳細に記録し情報を共有している。ケアの見直しの際は家族に報告し記録の提示を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に近い生活をして頂く為に外出、外部の受診希望があれば、家族の協力をお願いしながら、希望に添えるようにしている。帰宅願望のある入居者への対応を課題として検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月。土。日は地域のボランティアが入り生活支援を通して関わりがある。デイサービスでの定期的な訪問・レクリエーションへの参加や見学をさせて頂いている。また、馴染みの美容院からの送迎でサービスを受けている方もいる。(出張サービスもある)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1～2回の定期受診、体調不良時は臨時受診を行い、早めの対応を心掛けている。主治医にはいつでも相談できる体制づくりができています。他科受診は家族と相談し、職員の同行支援も行っている。また、歯科医に(義歯調整・ブラッシング指導)依頼し往診して頂いている。	利用者の入所前の既往歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、殆んどがホームに隣接の協力医療機関での受診を希望している。通院は家族もしくは職員が同伴しており、日々のバイタルチェックの結果も医師に伝え、また受診結果については電話等で家族と連絡する等、情報交換も十分に行われている。歯科や皮膚科については、往診も実施されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の日々の変化に気づいて、状態によっては看護師や医師への相談を行っているので、重症化せず早期回復をしている。また、申し送りによって、細かな気づきの伝達や記録を残している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は、1日2回以上の面会に行き状況を把握している。また、気づいたことを看護師へ情報提供している。家族への声掛けも行い相談を聞いている。入院中は、体調次第でホームでお茶の時間を過ごすこともある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り支援の方針について個々への説明を行い文書を渡してある。重症化した状況によって、本人家族の希望と医師の意見を聞いたうえで話し合いを持ち、方向性を決めて支援している。今昨年度2名の看取りを行った。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入所時に「看取りに関する指針」で説明して本人やご家族の理解を得ている。重度化した時点で再度説明して同意を貰い、本人や家族の意向を尊重しながら、主治医と連携して可能な限りの支援体制を築いており、これまで数件看取りを実施して家族に感謝されている。管理者は、終末期対応における職員の不安の除去やケアの質の向上については、随時、状況に応じた研修やフォローの体制をとる等、細かに配慮している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルがある。職員会議の中では、ヒヤリはっとの検討や事故発生時の対応について意見交換を行い応用力に近づけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議では報告を行い、メンバーの参加があり意見をいただいている。地域協力体制として、近所に火災を知らせるサイレン等の設置をしている。昨年度4月に誤報があり点検と部品の交換を行った。	消防署との連携により年2回、夜間を含む火災を想定した避難・消火・通報訓練を法人全体で実施している。消防署職員による防災に関する講話や消火器及びAEDの取り扱いの研修や心肺停止時の処置方法を訓練している。スプリンクラーや自動通報装置、給水タンクの設置や防災グッズや卓上コンロの整備、災害に備えて長期保存（賞味期限25年間）の雑炊やシチュー等の食料や飲料水も備蓄されている。また、同一敷地内の医療機関やデイサービスセンター、地域住民との協力体制も築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りに思っている事や、昔、楽しかった事柄の話題で、生き生きとした表情を引き出せるような言葉掛けをしている。トイレ誘導では、耳元での声掛けやさりげない声掛けを行っている。	利用者の人格を尊重し、日々のケアの中で尊厳やプライドを損ねることの無いように言葉かけや対応に十分配慮し、計画的な研修や日常的な振り返りで意識を高めている。また、多くのボランティアや実習生に対しての指導はもとより、個人記録の保管や居室の保護にも適切に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者から話しかけやすい雰囲気作りをしている。一人ひとりの理解力に合わせて同じ目線で話をし活動の際には本人の希望に沿って行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は個々のペースまたはその日の健康状態により生活にリズムを作っている。自由に居室で休んでいただく。個々の趣味や興味のあることなど、本人の希望に任せて動いてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日の服装は本人の意思で選択して頂く。選択できない方は職員が準備し本人に確認している。洗顔後には乳液をつけたり整髪などを行う。本人家族に希望で理容を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人からの希望に応じて、下ごしらえやお盆拭きなどを手伝っていただく。職員も会話をしながら食事をとっている。季節や行事に沿って、また入居者の好物メニューに取り入れている。誕生日には、本人の好きなメニューを準備している。	利用者の好みや栄養のバランス、疾病による摂取制限等に配慮して、差し入れの食材も活用しながら調理している。食事が楽しみなものになるように、季節感のある旬の食材や多くの行事食、家族との食事会、外食、ラッキョウ漬け、干し柿や味噌作りなど工夫しており、食材の下ごしらえや下膳、食器洗い等は利用者も積極的に行っている。職員も一緒に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量などチェック表で確認している。調理面は柔らかくしたり、細かくしたり、味付けなども出来るだけ喜んで頂ける様に工夫している。食事介助は、その方に合ったペースで摂取して頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯をはずして洗浄を行っている。自分で出来る方は、出来るところまで見守りを行っている。口腔内のうがいや清拭（ハミングッド等）を行い、就寝時はポリドントを使用する方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿排便チェック表を確認しトイレの声掛けを行っている。できるだけ失敗の無いように心がけ、その方の自立度に応じて、日中、夜間の布パンツ又は、おむつ着用を考えて支援している。	各居室にトイレが設置されており、利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように排泄チェック表も活用して、不安や羞恥心に十分配慮した声掛けに努めながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者の身体的変動に対しては、適切なケアになるように話し合いや介護用品の工夫を繰り返し、プランにも反映させて改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自力で排便できるように、水分摂取に気を付けている。(水・お茶・牛乳・ヨーグルト・オリゴ糖を)取り入れている。排便を促すための腹部マッサージや便秘の状況に合わせて下剤の服用を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ゆっくりと入浴して頂く為に1日3人の支援をしている。時間に余裕ができ入居者のペースで残存機能の維持を支援しながら、楽しい会話・コミュニケーションにも心がけている。	入浴は基本的には週2回であるが、失禁等には随時シャワー浴や清拭を行うなど衛生面にも留意しながら、温度や入浴時間など可能な限り好みの入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には無理強いないで、言葉かけや時間帯の変更を行うなど工夫して、気持ち良く入浴されるように支援している。個浴での対応でボディチェックや皮膚疾患の治療をしながら職員と親しく会話を楽しむなど、利用者との親密なコミュニケーションを図る場にもなっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や訴えに注意し、安心して起床入床して頂くように配慮している。夜間は睡眠の妨げにならない程度に巡回している。夜間パットを使用することで不快感が最小限となり安眠できている。日中は希望に沿って休息をとって頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬手帳を薬と共に保管し、いつでも確認できるようにしている。変更や臨時処方があった場合は記録に残し把握できるようにしている。薬の確認は3回している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度が高くなる傾向であるが、お盆拭き、洗濯たたみ、ちり紙折りなどの自主活動を支援している。好きな音楽を聴く、歌う楽しみを作っている。四季折々の行事を計画し、心身共に楽しみを感じ取れるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出希望にそって出来るだけの支援に努めている。自主的に準備できるように声掛けと支援を行っている。外出では家族にも呼びかけ同行していただく時間を作っている。	入所者の約半数が最重度化しており、全員で外出することは困難になっているが、各人の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って、また、家族とも連携して近辺の散歩やドライブ・墓参り・買い物・一時帰宅・外食など可能な限り出かけて気分転換を図っている。また、年間外出計画にも組み込んで、季節毎の花見や藤まつりの見物など、可能な限り楽しく外出できるように工夫しており、利用者の身体能力に沿って車いす等も適切に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で所持されている方については随時家族に確認と報告をしている。外出時は、本人の意思を聞きながら買い物し、自己での支払いを支援している。ヤクルトの訪問販売で購入されている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者から要望がある際は家族に電話を掛ける支援を行っている。また、毎月、書類発送する際には家族に手紙を書かれる方もいる。また、年賀状を書いて頂いた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレの設置がある。リビングに室温器を設置し適温を保つように心がけている。リビングの各所やベランダに季節の花を飾ったり植えたり、行事作品を作り季節を感じる工夫をしている。また個々の動線に配慮した家具の配置としている。	ホームは「府中高齢者支援施設」の2階に設置されており、四方の大きな窓の眼下に、街並みや住宅、花木が眺められ、明るくて余裕あるスペースにテーブルセットやソファが適当な間隔で配置されている。畳部分と広いテラスも設置され、随所に生花や花鉢、利用者の作品、写真等が飾られて、和やかで落ち着いた雰囲気となっており、利用者は好みの場所で自由に寛いでいる。共有部分全てに余裕があり、外壁は断熱資材の構造になっており、整理整頓や清掃に心掛け、空調、採光、防臭にも細かに配慮して居心地良く過ごせる環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂などは気軽に過ごせるように開放的になっている。一人ひとりそれぞれ好きな場所で過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒、小物類は今まで使っていた物を持ち込んで使用している。家族の写真や季節の花鉢等を飾ったりし、話題作りを心掛けている。面会時には居室にお茶を運び、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。家族がいつでも泊まれるようにベッドを準備している。	各居室には、エアコン、トイレ、洗面台が備えてある。遠方からの面会の家族が宿泊したり、看取り時の医療器具の搬入にも対応できる余裕あるスペースが確保されている。本人やご家族の希望に沿って家族写真や使い慣れた整理筆筒、食器、小物、花、人形、身の回り品等を自由に持ち込んで頂いて、家庭と同様に落ち着いて過ごせるような空間づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサー式足元点灯やナースコールを設置し個々に応じて呼び鈴も活用している。共同空間は安全と活動性を考えて配置している。座席を定めず、利用者の気持ちを尊重しながらテーブル席やソファで過ごして頂き、他利用者との交流ができるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない